

無垢の会代表

丸山議員

交通事故対策について

問 昨年1年間に勝山市内で発生した交通事故は、一昨年より3人多い6人で、5年ぶりに増加した。対策として死亡事故ゼロの日の周知、夜間のハイビーム実践運動、飲酒しない役割の人を作るハンドルキーパー運動の推進など、市民の交通安全意識が必要。勝山市は道も街中も暗いと言われている。暗さが事故の一因ならば街路灯を一つでも増やして昼夜共に明るい町を目指すのも対策ではないか。理事者の見解を伺う。

答 市では県事業を活用し、中学校の通学路を中心に集落間の国道、市道に23年度末までに約300基のLED街路灯の設置工事を行っている。これは防犯対策の一環として、歩行者などが通行する歩道や車道の路肩を明るく照らすことを目的にしている。

一方で集落間の道路は車両がスピードを出しやすく、人身事故等の可能性が高いと考えられることから、運転者から夜間の歩行者の動きが見えやすいという交通安全対策の役割も果たしている。

高齢者の死亡事故対策について

問 昨年の交通死亡事故6人のうち、高齢者が5人を占めた。原因として高齢による体力、運動能力の低下があげられる。免許返納者は希望すれば10000円で身分証として使える運転経歴証明書の交付を受けられる。高齢者の運転免許自主返納の取り組みについて理事者の見解を伺う。

答 自主返納支援制度の支援内容は、まず、コミュニティバス及び市内バスにおける写真付きの無料乗車券の交付をしている。これにより交付した日から3年間無料となる。さらに写真付き住民基本台帳カードの無料交付を実施している。

この住民基本台帳カードの無料交付は、勝山市が最初に実施したもので、現在も本市と小浜市だけが実施している。これについてはご指摘のように、お年寄りの方が運転免許証を返納すると身分証明書がなくなってしまうという声に配慮したものである。さらに、交通安全協会では独自に、免許証返納者にピカジャンの贈呈も行っている。

日本共産党代表

山田議員

勝山の潜在力を活かして地域経済を活性化させる

問 農業公社が

- ① 除雪やスキー場の季節雇用
- ② 離農者の農地や生産資材
- ③ 認定農業者による農業指導
- ④ 45歳以下の新規就農者に年間150万円を7年間助成する制度

これらを制度化して活用すれば新たな農業者を育成できる。農業公社の体制を充実すべき。

答 第5次勝山市総合計画において、「新たな担い手の育成」や「農業公社機能の発展、充実」に取り組んでいくこととしており、平成24年度当初予算案に計上した「人材・農力育成事業」は、その具体的な事業ツールとなるものである。

24年度の財源は、国の緊急雇用対策を活用し、具体的な支援策を整備・構築することとしている。

その際、農業公社に任せっきりにするばかりでなく、市としても共同してその任に当たっていく考えであり、25年度に継続できるように、成果を出し検証した上で、指摘があった内容の妥当性、有効性、効率性も検討したうえで必要なことは措置を講じてまいりたい。

大規模公共事業と施設運営のあり方について

問 ①新体育館建設に伴う三谷川流域の浸水対策の事業費はどの程度か。この費用は下水道使用料に転嫁すべきでない。

②下水道事業への勝山市の財政負担は類似自治体より少ない。下水道使用料を見直すべき。

答 ①総事業費については、現段階で未確定な部分があり、相当長期の事業となると思われるが約6億円を見込んでいます。

下水道事業による浸水対策事業についてはすべて公費負担であり、下水道使用料は充てない。公費負担ということから一般会計繰入金を充てていく。

②前回の勝山市上下水道料金制度協議会は平成21年度に開催している。その協議会で想定していたことが、資本費平準化債の借入と上水道及び下水道での公的資金補償金免除除線上償還の実施である。この二つにより、特に、下水道事業特別会計は、一般会計繰入金を減少している。したがって協議会を開催し、上下水道料金制度を検証する必要があると認識している。

その他の質問
・原発依存から脱却する取り組みについて
・市民の英知を結集して、市政運営をすすめる取り組みについて